

循環型社会を実現する住まいづくり

積水ハウス株式会社
代表取締役社長

和田 勇

Isami Wada
President & Representative Director
Sekisui House, Ltd.

20世紀の文明活動は、大量の資源を消費し、環境を変革してきた世紀でした。その結果、様々な環境汚染や生態系の破壊を含む地球規模の危機を招いているのはご承知のとおりです。21世紀が始まった今、そうした「消費する社会」から、「循環する社会」「環境と共生していく社会」への転換に貢献することは、工業化住宅のトップメーカーとしての大きな責務であると考えております。

循環型経済社会の構築に貢献する住宅像の確立と革新的技術開発を目指して、総合的に将来の住宅の方向性を示した経済産業省の「資源循環型住宅技術開発プロジェクト」が2000年から4年間の計画でスタートしています。当社もその基幹企業として国家プロジェクトでの研究開発を進めるとともに、当社として具体的に取り組めるところは順次実施を図りつつあります。

その中のひとつである「住宅の長寿命化」は、住まいの特性を踏まえつつ循環型社会の構築に貢献するための重要な取り組みです。住まいは人の暮らしが営まれる場であり、集まれば街を形成し、それ自身がひとつの環境であるという側面をもっています。従って、住まいの寿命が延びることは、貴重な地球資源を有効利用するばかりでなく、よりよい街を育み、豊かな住環境を創造するという面からも環境に大きく貢献すると考えています。

デザイン面では、高齢社会対応の「バリアフリー」を包括した21世紀初頭の新しい住宅の設計概念として「ユニバーサルデザイン」が注目されてきました。お年寄りから子供まで、さらに個人差を超えて、誰もが日常の生活における安全安心、使いやすさを考え、工夫していこうという考え方の具現化が住宅の長寿命化を補完する重要な要素として求められています。これは、高度成長期に確立した、日本の住宅設計規範や作法への変革が始まったと考えられます。また、住まいにおけるIT(情報技術)を手段とした様々なソフト開発も、住宅メーカーとして近々の課題だと思えます。

社会的な課題となっている廃棄物の削減も、資源循環を促進する大切な活動だと思えます。その具体的な目標の「2005年の工場ゼロエミッション達成」は、スタートであ



る2000年度には、埋め立て廃棄物の前年度比70%削減を達成しました。また、工場と建築現場が連携した、住宅部材の梱包材を段ボールから繰り返し使えるプラスチックや鉄製への変換や、廃材を使った再生部材の開発と再利用等の数々のトライが功を奏し、目標より2年早く2003年には「工場ゼロエミッション」の達成ができております。

地球環境負荷低減のための、省エネルギーや創エネルギーへの対応は、断熱・気密性の向上や太陽光・燃料電池・風力等の新エネルギーや、コージェネレーション技術等、さまざまな分野からのトライにより住宅への展開も近々の技術として見えてきているようです。また、資源循環型住宅を達成するための、リデュース(抑制)・リムーブ(取り外し)・リサイクル(再生利用)の技術も、着々と研究開発されつつあります。

私どもの地球環境への取り組みは、住宅メーカーとしての独自の視点から構成された『やさしさを地球に』『街とともに』『やさしさを人に』を軸に、人・街・地球の調和する未来を目指した「環境未来計画」に則って進められています。多々の課題はありますが1990年代後半から様々なジャンルで技術開発競争が起こりつつある中で、当社は住宅・建材等の関連する業界の枠を超えた企業・団体との共同開発を積極的に行っています。それら様々な技術を「住まい・人」という観点から、快適・リサイクル・情報等々の軸に統合し、それに生活ソフトを加えて組みあげた、本当に必要で、使いやすく、わかりやすい商品を作り上げることが住宅メーカーの責務であると考えています。

このように当社をはじめそれぞれの産業界・企業がそれぞれの範疇での責務を果たすうえで生活・産業の基盤であるエネルギー関連への期待は大きく、エネルギー関連の新たな技術開発が今後の時代に大きな影響を与えることは言うまでもありません。21世紀日本を担う数々の研究開発の成果が一日でも早く現れ、社会を大きく変革させてくれることを切に願っています。